



ユネスコエコパーク、 自然首都・只見にふさわしい 国道289号八十里越の開通のために



土砂置き場の植生回復状況調査



溪流の水生生物調査

令和9年夏、国道289号八十里越が暫定開通する予定です。この開通は、多くの町民の方が期待されてきたものであり、只見町のインフラ環境や経済環境が大きく変化する出来事になるでしょう。一方で、この八十里越の自然は、今の只見町のブランドを語る上で欠かせない場所でもあります。

平成19年、八十里越のブナ林を舞台に「こどもブナサミット」が開催され、当時のこどもたちによりこの只見の豊かな自然を次世代に引き継いでいくという『「自然首都・只見」宣言』が行われました。この宣言をきっかけに只見町は自然首都・只見としてのブランド化を進め、平成26年にはユネスコエコパークの登録を実現しています。つまり、今の只見町のブランドは八十里越の自然から始まったと言っても間違いありません。

八十里越の自然を貫くように開通する国道289号八十里越ですが、開通にあたっての課題がないわけではありません。道路利用する人の出入りによる道路周辺の自然環境や野生動植物、地域の住民による山菜・キノコの採集などの入会慣行などへの影響、不法投棄、不法遊漁なども懸念されます。「自然首都・只見」のブランドを守るためにもそのような事態はぜひ避けたいものです。

只見町ブナセンターでは今年度から八十里越総合学術調査を開始し、道路開通前の八十里越の自然環境や野生動植物の状況の把握に乗り出しました。この開通前の調査とあわせて開通後の調査も実施し、開通前後の状況を比較することで、道路開通による八十里越への影響を把握し、適切な保全策を検討、実施していくことを狙っています。

八十里越の自然を守ることは、只見町の20年近くの間で築き上げてきたブランドを守ることであり、その実現は只見町のブランド価値のさらなる向上につながることでしょう。

只見町ブナセンターからのお知らせ

企画展「アリからクマまでータネをまく動物」

期間：4月4日(土)～11月30日(月) 場所：ただみ・ブナと川のミュージアム

内容：自ら動くことができない植物は、動物の力を借りてタネを遠くに移動させ、子孫を残してきました。本企画展では、その仕組みなどについて、全国の研究者が解説します。また、大人から子供まで楽しく理解できるよう工夫をしましたので、ぜひ見学にお越しください。